

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270300504		
法人名	(有)SEIFUKUSHI		
事業所名	グループハウスおよりの郷Ⅱ		
所在地	長崎県島原市鎌田町丁4133		
自己評価作成日	令和3年1月11日	評価結果市町村受理日	令和3年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和3年2月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のどか、のんびり、ゆったり の理念に基づき、入居者の方々の個性を尊重し、一人ひとりが自分らしく生活して頂けるように支援していくことをモットーとしております。共同生活の為ある程度の制限があるかもしれませんが出来る限り皆さんが、自由に、自分らしく、生き生きと暮らせ、人生の楽しい思い出になるよう心より応援したいと考えております。かつ家族の皆様とのコミュニケーションを大切にして、家族的で優しく暖かな介護を目指して頑張っております。それに加え、池端町内会の会員として地域活動に励んでおり、そのお陰で安中地区の方々や市、公民館との繋がりが増えました。令和2年度はCOVID-19感染対策で、町内や地区、研修受入等活動や面会等が限られてしまいました。今後もCOVID-19感染防止対策をしっかり行い、入居者様・職員ともに健康に暮らして行きたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成2年に噴火した雲仙普賢岳噴火災害後、官民一体で取り組んだ安中土地区画整理事業の区画整備地に平成16年に建築したホームである。「のどか・のんびり・ゆったり」というホーム理念に基づき、職員一人ひとりが入居者一人ひとりの個性を尊重し、それぞれが自由に・自分らしく・生き生きと生活できるよう支援に取り組んでいる。ホームでは地域の町内会に加入し、市民清掃への積極的な参加や地域住民と挨拶を交わすことで交流を深めている。また、地域の保育園児が訪問し唄ったり、小学校の運動会へ見物に出掛けるほか、地元中学校及び高校生の職場体験受け入れ後には入居者よりプレゼントを手渡すなど、入居者が地域と繋がりながら暮らし続けられるよう支援している。家族との情報交換については日頃の面会時や電話連絡を通じて行ってきたが、現在はコロナ禍により面会を制限し感染症への対策を講じるとともに、電話やメール、手紙等を活用し家族等との関係が継続できるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営者、管理者とスタッフが業務に取り組む心構えを基本として、理念を作り上げた。その理念に基づいてサービス提供が出来るようにスタッフミーティングでも確認している	毎月1回のスタッフミーティングを通じ、管理者と職員がホーム立ち上げ時からの理念である「のどか・のんびり・ゆったり」の共有を図っている。ホームでは理念に基づき入居者一人ひとりの個性を尊重し、それぞれが自由に・自分らしく・生き生きと生活できるよう実践に努めている。	
2	(2)	利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会とは継続的に会員として参加している。が、新型コロナウイルス(以下COVID-19とする)の影響で中止や感染症対策をした上での開催参加となっている	現在は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から地域との交流はできていないが、町内会会員として年2回の市民清掃や地域の保育園児との訪問による交流、地元中学校及び高校生の介護体験や実習など、入居者が地域と繋がりがりながら暮らし続けられるよう、ホーム自体が地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアや実習生を積極的に受け入れていたが、令和2年はCOVID-19対応でなかなか出来ていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域代表や家族の代表、駐在所の方にも参加して頂き、入居者様の近況や活動内容の報告だけでなく、参加者の方々からの質問や意見を頂き取り入れるものは取り入れ、こちらからも情報を発信しているが、COVID-19対応で施設から隣の公民館を借りて開催。当市で発生した時は、中止し書類のやりとりとした。	運営推進会議には駐在所の警察官や民生委員、地域・家族代表、市介護保険課担当者など参加している。会議では入居者の状況やホームの活動内容を報告し、参加者からの意見や提案を受けることでサービスの質の向上に繋がっている。現在は新型コロナウイルス感染症対応のため、地域の公民館にて開催している。地域の感染状況に応じて書面での運営推進会議に切り替えるなど適宜対応している。	運営推進会議に同地域の町内会長にも参加を促し、運営についての理解や協力を求め参画してもらうことでより地域に開かれた事業展開に繋げるとともに、当地域での協力体制を構築することに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村や県等の研修に参加したり、問い合わせをしたりしている。介護保険課だけでなく市民安全課や秘書人事課等と連携しているが、令和2年になってCOVID-19対応で研修への参加はしていない。	コロナ禍にある現在、外部での各種研修等に参加できていないが、コロナ禍以前は市町や県が運営する研修会に職員が参加するほか、市介護保険課等と連携しながら入居者支援に取り組んでいた。現在は電話やメール等で連絡を取り、協力関係を継続している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会の研修で学び、何かあればスタッフミーティングで対応できるようにしている	ホームでは3か月毎に身体拘束廃止委員会を開催し、ホームでの身体拘束に関する状況を確認すると同時に身体拘束に関する研修会を開催することで職員の学びに繋げ、ホーム全体で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、身体拘束に関する指針を定め、入居時に入居者と家族に説明しているが、現在まで身体拘束に該当する行為は行っていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	およりグループの身体拘束廃止委員会の研修会で学び、学習の成果をサービス提供につなげ、何かあればスタッフミーティングで対応できるようにしているが、現在COVID-19対策で各事業所単位で実施中。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市主催の研修会に参加し、知識を深め関係を広めた。そのお陰で以前在籍されていた方の親族が、自分も高齢で今後の関わりが不安であると話されたため、島原市社会福祉協議会の担当と会議を持った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、機会があれば説明し、改定の時もできるだけ早くから情報を伝え理解を深めてもらっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意見希望があれば相談し出来るだけ添うようにし、苦情発生時には、話し合いの場を設けて解決に努めると共に、第三者機関の説明も行っている	入居者からの要望等については日頃より職員が直接対話し聴き取っている。職員は家族からの電話やメール等を通じて入居者の暮らしに関する要望や提案を聴き取り、入居者が自分らしく暮らしを継続できるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	令和2年はCOVID-19対応で年1回の全体会議が無かったが、各事業所ではその都度意見交換をし、反映するようしている	ホームでは日頃から職員と管理者が会話する機会を設けるとともに、毎月1回のスタッフミーティングにおいて管理者と職員が話し合う機会を設けることで、職員の意見や提案が運営に反映できるよう取り組んでいる。また、必要に応じてホーム代表及び管理者との個別面談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じて、経営者・管理者が個別面談を行い、相談等を行い実践している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験の浅い職員には、研修等に参加すると共に、ベテラン職員による教育等を実施している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	既存のネットワークに、研修や行事等を利用して他機関の職員との交流を積極的に図り、強化・活用に努めている。が、令和2年はCOVID-19で研修や行事がなく、少ない機会を活かすようにしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント情報を基にして、生活歴等を考慮した本人に見合った介護を行うことに心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテーク時より家族等の意見をよく傾聴して、家族も含めた包括的な支援を心がけている。入居された方のご家族が近畿・関東地方におり、今後入居者さんがどこで暮らすのが良いか相談中。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族・本人とよく話し合い、ニーズの決定を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホーム内の簡単な業務(洗濯物たたみや新聞折り等)を共同作業という意識を持って行っている。また、本人様が希望する呼び名で対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時等に、話し合いの場を設定して包括的な支援を行い、インターネットやFAX、郵便を利用し、情報のやり取りをしている。が、COVID-19が流行してからは、電話やeメールや郵便で行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が来所された時は、快く迎えてこれまでの関係が継続できるようにし、その時写真撮影をし居室内に掲示することで再認識できるように努めていた。令和2年はCOVID-19の感染防止のため面会規制や禁止と県や国の感染情報に応じて対応しているため苦慮している。	現在は新型コロナウイルス感染症予防のため入居者の友人・知人との面会は行っていないが、以前は面会に訪れた際に入居者の居室で会話を楽しんだり、住み慣れた地域の酒屋に入居者が訪問し会話を楽しむなどの交流があった。また、ドライブに出掛けてコスモス見学を行うなど、入居者と住み慣れた地域の人や場との関係が継続できるよう支援してきた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや行事等を通じて入居者間の交流を図り、全員が楽しく過ごせるように、働きかけている。問題が発生したときや発生が予想される時は、席の配置等を検討し対応している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も相談があれば、親身になって応じる旨伝えている。退所後も野菜を持ってきて下さったり交流している方もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示等困難な方には、アセスメントや日々の様子等で感じた事や訴え等に共感する姿勢で本人の気持ちを汲むよう心掛けている	ホームでは入居時に入居者一人ひとりにアセスメントを実施し、聴き取った内容を記録に残すことで暮らしの希望や意向の把握に努めている。意思表示等が困難な方には家族や親族・知人などからも聴き取り、本人本位に検討しながら入居者が望む自分らしい生活ができるよう支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インタビュー・アセスメント時に、家族や本人から得た情報を基にしてケアプランを作成し、それに基づいて、いままでの生活環境を少しでも保てるように支援し、その後も情報を収集し改善している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録、連絡帳、申し送りや主治医、訪問リハビリの理学療法士等との連携等を活用して継続的な支援が行えるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意見や職員の意見等を、ケース会議を通じて介護支援専門員が取りまとめて、ケアプランに反映している	入居者や家族へのアセスメントを通じて得られた入居者がより良く暮らすための課題や希望について、職員の意見等を加えケース会議で検討している。介護支援専門員が入居者一人ひとりに応じた介護計画を作成し、それをもとに職員がケアを実践し定期的に評価を行い、改善に向けて取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を毎日記録して、日々の状態の把握に努め見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新しいニーズが発生した場合は、モニタリング後ケース会議を開催して問題解決に努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	インターネット、運営推進会議や町内会活動、地域情報誌・研修会等を活用して、地域資源の把握に努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に、かかりつけの医療機関やご希望を伺い連携を取り、入所後の連携構築と維持に努めている	ホームでは入居者及び家族が希望するかかりつけ医の受診支援を行っており、家族から通院時に同行の依頼があれば職員が送迎し、医師の診察にも立ち会っている。同行した職員は主治医からの指示等をホームの管理者や職員に報告し、より良い支援に活かしている。	定期受診の際、かかりつけ医の診断結果が「異常なし」の場合であっても、ホーム内のみの報告でなく「健康状態は安定している」との診察状況を家族にも伝えることで、家族の安心感に繋げることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師と情報を共有して必要な情報、気付き等を担当医師へ表(バイタルや排泄、食事摂取量等)にし伝え誰が付き添っても十分な治療、処置を行えるよう努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中も医療機関と連携を取り、退院後の支援に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際にご家族と書類にて同意を頂き、常勤看護師や医師とも情報の共有を行っている。主治医からの情報で、ご家族に現状を伝え、今後について順を追って話しながら対応している。ご家族のケアを行っているなかで死を迎えられた。	ホームでの看取り加算は取得していないが、入居の際には入居者と家族に対して重度化した場合や終末期の看取りについて説明し、同意を得ている。主治医とも連携しながら、家族に状況を伝えつつ尊厳のある支援に取り組んでいる。実際に看取りがあった場合には運営推進会議にも報告し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、救急救命法の講習を積極的に受講していたが、令和2年度はCOVID-19対応で講習会が行われていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	島原市市民安全課や消防等の防災機関と連携をとり、地区の避難訓練には毎年参加している。地震、津波等災害に応じた計画に雲仙普賢岳溶岩ドーム崩壊が加わり、市民安全課の力を借りて避難計画書【自然災害対策編】を作成し、訓練を行っている。	ホームでは消防計画をもとに火災や自然災害時の避難訓練について島原市市民安全課・消防署・地域の消防団等と連携し、消火・避難訓練を実施している。その結果を運営推進会議で報告するとともに、全職員が消火・通報・避難誘導等を習得しており、地域住民との協力体制も構築している。	避難訓練報告書には参加した職員・入居者の人数だけでなく、分かりやすいよう氏名も記載することが望ましい。また、職員の役割分担を勤務シフトにより取り決めているが、実践状況が曖昧であったため、自衛消防隊の組織及び任務担当の把握と周知・実践に期待する。更に、避難時の入居者情報が把握しやすいよう「入居者情報」に写真(胸上・全身の身体状態が分かる)・服薬情報等を追加するなど、今後の更なる取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本情報やケアプランに基づき、個々人に見合った支援を行うように心がけ、プライバシーへの配慮も行い自尊心も保たれるよう心がけている	職員は入居者一人ひとりの希望に沿って、手づくりの飾り物や家族の面会時の写真、入居者が表彰された際の新聞記事等を居室内の壁に飾るほか、配偶者の位牌を身近に置くなど、入居者がいつも居心地良く穏やかに、自尊心を持って過ごせるようプライバシーに配慮した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の業務の中で、本人との会話の中から、本人が望む生活を聞き出し、少しでも実現するように心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が出来る限り、本人のペースで生活できるように理念に基づき努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に職員が気を配り、その人その人の好みに合った身嗜みの支援を行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しく安全に食事が出来るように、個人ごとに適した状態をつくり、職員全員が心がけているが介護度が上がり、認知症の種類も増え一緒にすることは難しい	食事はホーム内で調理しており、地元の新鮮な野菜や地元食材を利用し、盛り付け・色味に気を配りながら入居者一人ひとりが楽しめるようテーブルクロスの色を変えたり、毎月1日には赤飯を提供している。正月はおせち、節分には恵方巻など季節を楽しめる工夫も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成したメニューを基に、バランスが取れた食事をその方が食べられる状態に手を加え提供し、水分もムセや好みに対応し工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各自の出来る部分と出来ない部分を見極めて、本人に適した支援を行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護の必要な入居者に対しては、自尊心に十分配慮した支援を行っている。トイレへの誘導等が必要な場合はチェック表をもとに適切なタイミングで気持ち良く排泄されるよう心がけている	入居者一人ひとりの居室にトイレがあり、排泄時は扉を閉めるなど入居者の自尊心やプライバシーに配慮した支援に努めている。また、排泄記録表に記録することで入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、必要な方には失禁しないようトイレへの声掛けを行い、入居者が気分良く過ごせるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表による間隔の把握に合わせ食物繊維の多く含まれる、食材を使用したり、医療機関と連携して下剤の変更や使用方法を工夫し、運動による便秘予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人のADL状況に見合った支援を行い、「楽しく入浴する。」ことを前提としている	入浴は毎日準備しており、午前・午後を問わずいつでも入浴することができ、職員は入居者一人ひとりの希望やタイミングで入浴できるよう支援している。また、柚子・レモン・森林浴・ローズなど各種入浴剤を準備し、本人の希望に応じて使用することでアロマ効果により入居者の心身を癒している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々人の習慣や症状・状態に合わせた支援を行い、安心感が持て、生活できるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬ミスを起こさないことを最大限の支援として、主治医の指示に従い、服薬後は様子観察等を行い、本人の状態把握に努めている。通院時に主治医へ状態を伝え最適な状態になるよう連携をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホームの生活の中で、その人に見合った役割分担を行い、洗濯物たたみや新聞折り等の作業や趣味活動を取り入れ、生活の中に生き甲斐が持てるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	令和2年からCOVID-19の影響でよりグループ合同の行事が中止となり、戸外は通院が主となった。気持ちが晴れるようにコスモスの花見へ行った。	新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から現在は外出を自粛しているが、以前はホーム周辺を散歩し地域の人と挨拶を交わしたり、買物と一緒に掛けるほか、入居者と家族と一緒に外出できるよう支援するなど、入居者一人ひとりの希望に沿って戸外に出掛けられるよう家族や地域の人々と協力しながら支援してきた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布等の所持しておかないと不安な方が居られ、職員支援の下管理させていただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・通信等の制限は、常識の範囲内で行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、入居者の方たちがアクティビティワークで作成された物で少しでも季節が分かるよう飾りつけがしてあり、暖かい雰囲気を作っている	共用のリビングは一定の室温で管理し、居心地良く過ごせるよう配慮しており、壁には季節感が感じられるよう入居者・職員手づくりの節分・豆まき・バレンタインデー・お祭りなどアクティビティ活動での作品を掲示している。窓から差し込む温かな光によって優しい雰囲気を感じられ、入居者の笑顔が溢れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内に、ソファを配置して、入居者間の憩いの場として、活用している。入居者様の状況に応じ、席替えをしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、個人の自由空間として、安全上問題の無いものは、持ち込み自由としている	居室には入居者が居心地良く過ごせるよう、入居者本人の馴染みの物であるラジカセ・飾り物・写真・配偶者の位牌・孫が描いた絵などが持ち込まれている。また、本人の使い慣れた布団を使用するなど、本人や家族と相談しながら介護の動線を妨げないよう家具の配置を工夫し、居心地の良い居室づくりに取り組んでいる。新型コロナウイルス感染症にも対応できるよう陰圧機を設置した部屋が2部屋ある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々人の適正に合わせた役割分担を決めて、情緒を配慮しながら生活の活性化に努めている		